

劣等生からのアドバイス

講義は聴いた方がよいと思います。

自分で勉強するのは本当に難しいことです。

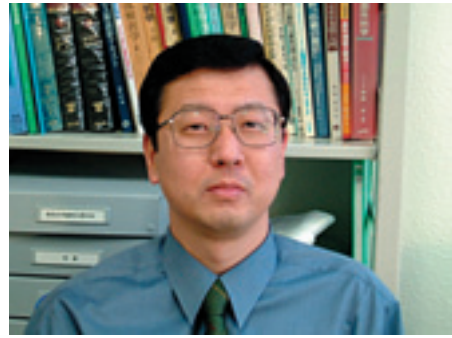
理解している人から、授業してもらうことは

何と効率的なのだろうと、

卒業後に気づきました。

秋田大学医学部附属病院 教授

宮本 洋二 みやもと ようじ



私は歯学部の一期生です。歯学部を'83年に卒業し、大学院に進学しました。その後、歯学部の口腔外科学第一講座に残り、'03年に医学部歯科口腔外科科長として秋田大学に赴任しました。

「口腔外科って何を

も多いでしょう。医学部に外科や内科があるように、歯学部も対象となる疾患によって科が分かれている

ます。たとえば、矯正科や小児歯科は聞かれたことがあるでしょう。保存科や補綴科という、一般の方では何をするとどこか分からないような科もあります。口腔外科もその一つで、主に口の病気を外科的に治療します。一番多いのは、骨の中に埋まった親知らずの抜歯です。顎の骨折や口の中にできた腫瘍、さらには癌の治療もします。

私自身は、徳島大学で20年、秋田大学で2年、口腔外科に携わってきただけで、特殊な経歴や才能はありません。少し変わっているのは、北国に来たことです。歯学部は今年、23期生が卒業したので、卒業生は

1200名を超えますが、東北には5名しかいません。青森に卒業生はいないので、本州では私が北限で生息していることになりました。在学生の中には、就職に際して、地理的な問題で悩まれている方も多いかと思えます。私も秋田に来る時には大いに思案しました。高校時代に聞いた「ローマで第二の人であるよりも、ここで第一の人であれ」という言葉に勇気づけられて秋田に来ました。いずこも住めば都です。今の時代、国内の地理的問題など些細な話です。

ところで、在学生の方にアドバイスがあります。講義は聴いた方がよいと思えます。変なアドバイスだと思われるかもしれませんが、私が学生だった頃には、教養課程があり、のんびりしていて、「硬式テニス部に通い、クラブは歯学部」という調子でした。恥ずかしい話、授業にはほとんど出ませんでした。「自分で本を読めば分かる」と思っていました。自分で勉強するのは本当に難しいことです。理解している人から、授業してもらうことは何と効率的なのだろうと、卒業後に気づきました。22年間、大学の教員をやっていると良く分かるのですが、どの教

員も「できるだけわかりやすい良い授業を」ということに心血を注いでいます。これを無駄にしたことを悔やんでいます。

しかし、なかには私のように「すでに遅いよ」と思っている人もいるでしょう。私は前述のような学生です。成績はクラスで下から5、6番目であった自信があります。これは決して謙遜ではありません。6年で卒業したのは60人中54名でしたので、卒業時にはほぼ最下位でした。私が今、成功しているか

どうかは分かりませんが、一応、国立大学医学部の教授として生活しています。遅すぎるということはないのです。そして、私は皆さんが羨ましい。皆さんは、私より20歳以上若いのです。私はこれからも頑張るつもりで職業を続けるつもりですが、いくら頑張っても、皆さんがこれから見るであろう未来の社会や科学の発展を、私は決して見られないのです。



略歴

兵庫県出身

- 1983年 徳島大学歯学部歯学科卒業
- 87年 徳島大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)
- 87年 徳島大学助手歯学部口腔外科学第一講座
- 1992年 徳島大学講師歯学部附属病院第一口腔外科
- 2003年 秋田大学助教授医学部附属病院歯科口腔外科
- 05年 秋田大学教授医学部附属病院歯科口腔外科